

(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	隠岐の島町立有木小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
5, 6	総合	まにの広場の課題について考え実践しよう	教育委員会 (ひと) 総合体育館の方 (ひと) グラウンドゴルフの方 (ひと)
ねらい		様々な人々との関わり方において、主体的・創造的・協同的に関わろうとする態度や実行力を育てる。	

1 取組の概要

放課後子ども教室（まにの広場）の課題の解決に取り組む学習活動を実施した。課題は以下の通りである。

課題：体験・交流活動の提供不足及びマンネリ化

この課題を解決するために、教育委員会担当者と計画・実践・評価のサイクルを2班体制で2回実施した。1回目は練習とし、昼休憩に実施。その時の課題をもとに、2回目の本番の準備や計画を進め本番に臨んだ。本番は、12月にアクティブチャイルドプログラム交流会を、1月にグラウンドゴルフ交流会の2つの活動を実施した。

2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

○自分たちの住む地域には、様々な人がいることを理解し、その存在を身近に感じ、主体的・創造的・協働的に関わろうとする態度を育てる意図をもって、地域の「ひと」を活用した。

（学力育成の視点から）

○まにの広場の体験・交流活動をより楽しくするためには、どんなことをしたらいいか、下学年の実態を基に考え、計画・実践し、自分たちの活動を振り返る中で、主に以下の学力を育成する意図をもって活用した。

- ・課題解決の方法やその手順を考える力（思考力・判断力・表現力）
- ・学習や活動を振り返り、次の活動に生かす力（思考力・判断力・表現力）
- ・自分や他の人と対話しながら考え、活動を進める力（学びに向かう力・人間性等）



3 児童・生徒に見られた変容（どのような力が身に付いたか等）

（ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から）

- ・2学期の学習を通して、教育委員会の方と積極的に関わろうとする姿が見られた。また、同じ班の仲間と積極的に関わり、よりよい活動にしようとしたり自分の役割を果たそうとしたりする姿を見ることができた。

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。

- ・自分たちが普段参加しているまにの広場の活動をよりよくしようとする意欲が高く、最後まで課題を我がごととして、学習に向かう姿が見られた。

(学力育成の視点から)

- ・まにの広場の活動を計画、準備する中で、教育委員会の方だけでなく総合体育館の方やグラウンドゴルフをされている方などとも一緒に計画をし、いろいろな人との対話を交えながら、活動を進めていく力、いわゆる実行力につながる活動となったように感じる。
- ・地域の方を有木小に招いて活動を進めることを通して、活動を成功させるための思考力、判断力、表現力を身につけることができた。また、交流を通して何度も振り返ることで、より積極的に関わろうとする態度の変容が見られた。



4 課題や今後の展望

今後も地域の「ひと・もの・こと」を活用し、5・6年生では課題解決型学習を行いたい。

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※この事例をしまねのふるさと教育ホームページに掲載する予定のため、画像は必ず承諾を得たものにしてください。